

## YAMATO Leaf Archive



《葉画家・群馬直美がこれまでに描いた絵とエッセイをお楽しみください》

— 絵と文 群馬直美 —

## 三つのみかん《温州みかん》

三つのみかんの絵——。

一つ目は、収穫直後のみかんの絵。

二つ目は、包丁で半分に切ってみかんの断面を描きたい! という私の強い意思が入ったみかんの絵。

三つ目は、食べるためにヘタに親指を突き刺し皮をむきかけたとき、

その様子にハッと心打たれ描いたみかんの絵。

『描き終えて食したビオトープ園のみかんは、昔食べたみかんの味がした。

酸味と甘みのバランスが絶妙で濃厚で、桐箱に一つずつ詰めて、みんなにプレゼントしたいくらいだ』

と、三つのみかんの絵に文章を寄せたのは9年前のこと。

昨年、この三つのみかんの絵を版画にして、一つ一つ正方形の箱型の額に入れて、

アトリエ展で販売した。すると、一番人気があったのは、三つ目の皮をむきかけたみかんの絵だった。

何で一つ目と二つのみかんの絵は、みんなに選ばれないの?

と、がっかりしていたら……〈おいしいみかんの見分け方〉の条件にピッタリ当てはまった。

——濃いオレンジ色をしていて形は扁平。

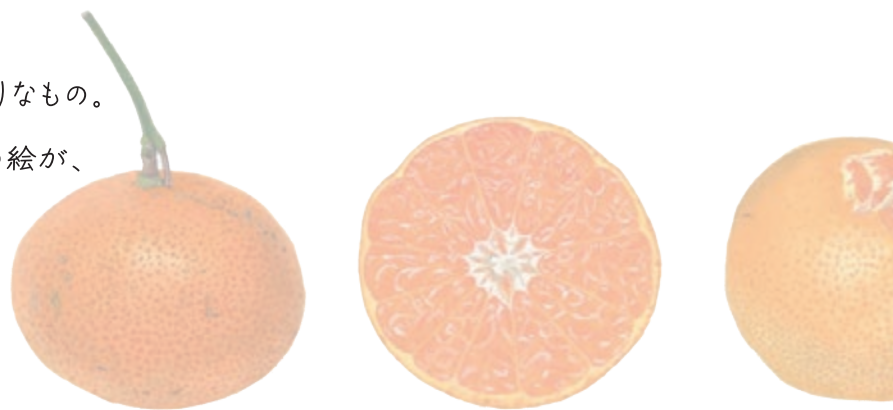
皮がうすくて小さなぶつぶつが密集し、小ぶりなもの。

みんなの琴線に触れなかった二つのみかんの絵が、

〈おいしいみかん〉そのものの絵になっていた。

「捨てる神あれば、拾う神あり」。

やはり、みんな価値ある存在なのである。



### 《表紙の絵》温州みかん

「果肉の袋や白い筋にも効能あり。」

・ヤマトビオトープ園にて2016年12月8日採集  
(作品の完成日は2016年12月20日)

・紙(ファブリアーノ エキストラホワイト極細目)/テンペラ・油絵の具

・size:160mm×230mm

©Naomi Gumma

#### 群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのもの全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』『Dancing Vegetables 踊る野菜』他。東京都立川市在住。

<https://www.wood.jp/konoha/>